



RS ウイルス感染症

----- RS VIRUS INFECTION

特徴

1 歳になる前に約 70%が初感染します。1 歳以下の子は、約 1/3 が上気道感染だけでなく、気管支炎、肺炎といった下気道へ感染が広がります。重症度は年齢とともに、減弱します。

潜伏期は 2～8 日、典型的には 4～6 日です。つまり、ウイルス感染後 5 日くらいして、症状が出ます。

発熱、鼻汁などの上気道炎症状が数日続きます。

咳がひどく続く場合、細気管支炎、気管支炎の合併を考えます。

通常 7～12 日で、軽快します。

ウイルスの排泄は持続していて、酸素化の低下が続くことがあり、入院治療が必要になる場合があります。特に 1 歳未満の小さな子は、注意が必要です。

RS ウイルスに 1 度かかっても、再感染します。幼児になると、軽くすむことが多くなります。

子どもだけでなく、大人にも感染します。高齢者では、問題となります。

感染経路

RS ウイルス感染者の咳やくしゃみを吸い込んだり（飛沫感染）、ウイルスのついた手や物を触った後舐めたりすること（接触感染）で感染します。

感染後、3～8 日程度は他人に感染させる力があります。

検査

迅速診断キットなどで抗原を検出方法もありますが、健康保険適用が認められているのは、1 歳未満の乳児、入院中の患者、パリビズマブ（シナジス®）の適応となる患者等だけです。

PCR 検査方法などもありますが、健康保険適用に限りがあります。

治療

2024 年 2 月時点で、特別な抗ウイルスの内服薬はありません。

重症な細気管支炎・肺炎に対しては、入院の上、対症療法を行います。



予防 ワクチンなど

すでに乳児に対する抗 RS ウイルスヒト化モノクローナル抗体製剤「シナジス」が、低体重出生時、心臓疾患等の児に対して接種が進められていますが、60 歳以上の人用のワクチン「アレックスビー」が発売され、さらに妊婦さん用のワクチン「アブリスボ」が発売されます。

「シナジス」パリビズマブ

抗 RS ウイルスモノクローナル抗体

低体重出生時、心疾患のなど児に公費で、接種します。

さらに 24 か月以下の先天代謝異常症の新生児・乳児なども新しく追加適応となりました。

「ベイフォータス」ニルセビマブ

抗 RS ウイルス IgG モノクローナル抗体

の長期作用型。2024 年 5 月 22 日から使用ができるようになりました。

日本小児科学会神奈川県地方会感染症小委員会は、投与指針が定まるまで、今しばらく「パリビズマブ」の使用を推奨しています。

----- RS VIRUS VACCINE

「アレックスビー」

60 歳以上用筋注

2024 年 1 月に発売されました。高齢者自身を守るために、開発されました。

新生児や乳幼児に接する機会の多い 60 歳以上の方にも、お勧めします。

当院でも接種可能です。

「アブリスボ」

妊婦用筋注

妊娠 24～36 週の妊婦に 1 回

0.5mL を筋肉内に接種します。

2024 年 6 月発売予定です。

こどもの感染症に詳しい新潟大学の齋藤昭彦教授は「妊婦がこのワクチンを接種すると、抗体が胎盤を通じて赤ちゃんにも届くので、生まれてから半年くらいまで RS ウイルスへの感染や重症化から守ることができる。小児科医にとっては非常に期待の持てるワクチンだ」としています。

流行状況----- 2024 年

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/10/2096-weeklygraph/1661-21rsv.html>

国立感染症センター資料から 2024 年第 19 週まで（2024 年 3 月発表）



右のグラフの赤線のように有難いことに、2024 年はまだ流行していません。妊婦さんへのワクチンの発売・接種が始まる 6 月まで、流行しないで待っていて欲しいです。

RSV Infection cases reported per sentinel weekly [定点当たり報告数]

